

平成 28 年度事業計画書

会務 H28 年度事業計画

1. 運営体制

学会の諸活動は、委員会活動を中心に進め、研究会活動、講演会等の企画についても進めていく。
本年度定時総会は 6 月の定例理事会の日に開催する。

2. 年次大会の開催

第 26 日本 MRS 年次大会を平成 28 年 12 月 19 日～22 日に横浜にて開催する。演題登録は 6 月 6 日に開始した。

3. 内外の関連諸機関との連絡・協力

- 1) 先進材料に関する国内各学会・諸団体との連絡および協力を行う。
- 2) 横浜市との連携を維持し「横浜市次世代育成事業」を継続的に主催する。
- 3) IUMRS および IUMRS メンバーの各 MRS その他海外の先進材料に関する学会・諸団体に積極的に参加し、協力を行う。

4. 会誌等の刊行、広報

- 1) 編集委員会及び出版事務局より、学術論文誌「Transactions of the Materials Research Society of Japan」を年 4 回刊行する。これまで印刷会社に委託していた ScholarOne の操作を含む印刷前段階の作業並びに発送を本事務局で担う。
- 2) ニュース編集委員会により、「日本 MRS ニュース」(Vol.27 No.1-No.4) を発行する。
- 3) 広報委員会において、「日本 MRS ホームページ」(<http://www.mrs-j.org/>)を更新し、その運営・維持管理を中心として広報活動を行う。

5. 会員管理・会費請求

- 1) 次年度の会費請求を前年度中に実施する。併せて、会員証の発行を継続的に行う
- 2) 会員管理システム(会員 My page の構築)の導入を実現したい。
- 3) 法人会員数の増加を目標とし、学会パンフレット等を作成し学会の情宣活動を行いたい。

6. IUMRS-ICAM2017 の運営

2017 年開催の IUMRS-ICA2017 の準備を当該会議組織委員会の下に進める。

日本 MRS ニュース編集委員会 H28 年度活動計画

日本 MRS ニュース編集委員会
委員長 岩田展幸

■平成 28(2016)年度 第 1 回日本 MRS ニュース編集委員会を開催し、今後の予定について下記のように審議した。

1. 日時：H28(2016)年 6 月 4 日 16:00～18:00

2. 場所：日本大学理工学部 駿河台校舎 5号館 523室

3. 審議事項

1) 「日本 MRS ニュース」の位置づけ

・理事会や事務局からの積極的な協力を依頼

もっと各委員会から情報を事務局へ集約し、ニュースとして会員へ情報提供するべきとの意見があった。日本 MRS 会長が情報集約、配信の指示を出すのが良いとの意見があった。

2) 「日本 MRS ニュース」の記事内容&形態

- ・No.2 を 1 ヶ月遅らせて(6/20 発送)、日本 MRS 年次大会・発表登録開始予定時期(6 月初旬)に合わせる。形態は A2-4 つ折り、もしくは B2-四つ折りとし、1 年後を目処に No.2 のみ、これまでのニュース形態と異なる形で配信することが決まった。たたき台を岩田が作成することが決定した。内容は、日本 MRS 年次大会、参加者、発表者、会員に寄り添った立ち位置のニュース内容にすることが決定した。
- ・「研究所紹介」「トピックス」内容が専門的で分野外の読者には理解が難しいので、執筆者には、専門外の読者にも理解できるよう配慮してほしい旨意見があった。
- ・薄膜作製、評価技術、等々、研究を遂行するうえで必要な、基本的な原理や得られる情報などを、専門外の読者でも分かり易く解説した記事をシリーズ化してほしいとの意見があった。

3) 「日本 MRS ニュース」への広告記事掲載

- ・企業の製品や装置の原理/特徴に関する記事を掲載してはどうかとの意見があった。
- ・上記と併せて、展示、ホームページでの紹介をすると賛助会員増加へつながるとの意見があった。

4) フローの変更

・テキストベースで事務局でのチェックを入れたフローに変更することとなった。そのため、原稿依頼開始が 15 日間早まることとなった。

編集委員会 H28 年度活動計画

編集委員会
委員長 有沢 俊一

来季の活動計画

冊子の周知率を上げ、質の良い論文を増やし、ゆくゆくはインパクトファクター取得を現実的な目標とする。

周知率を上げるために HP での告知、年次大会等での告知など多数のチャンネルの最大限利用する。また、投稿者への呼びかけはもちろんのことだが、投稿者の満足度を上げることも重要であり、来季は投稿者の満足度を上げるために査読スピードアップ、採択から掲載までのより時間短縮についての検討を進める。また併せて収益性を上げるべく、冊子体の配布先の検討も行う。

TMRSJ の時代の変化への対応 ご審議いただきたい事項

- ・ 投稿規定等の改定
 1. リポジトリや自分の HP への掲載を可能に。
 2. 図版等の自己転載・再使用を、出典明記を条件に掲載許可不要に（教科書やレビューに再使用など）

3. 国際会議・年次大会参加者の投稿に原則として会議終了後1年程度の期限を設ける。あまり古くなると、オーガナイザー（ゲストエディター）の追跡等が困難になり、当事者意識も薄れるため。過ぎた場合は、原則として一般投稿扱いとする。
 4. 非会員にも、代表著者には当該年度のJ-stageパスワードを交付する。著者特典としての意味合い、別刷pdfファイル受取までのスピードアップ、および事務局からのpdfファイル送付作業の合理化。
- 発行頻度の改定
 1. 理事向け紙版は希望者を除き、原則廃止してゆく（アンケート）
 2. 徐々にオンライン版を主体にしてゆく。
 3. オンラインは年6回に。（掲載スピードアップと作業量の平準化）
 4. CDは年一回に。一年分をまとめたアーカイブCDを送付。
 5. 課題：紙版、CD、ニュース（紙版またはCDと同封して会員送付）の発行周期の調整
 - エディターズチョイス
 1. 選出方法
編集執行幹事による輪番
 2. 選出時期と周知方法
 3. 選出された論文は、会員外でもすぐに読めるようにするか。
(半年後は非会員でも全て読めるようになる)

広報・情報委員会 H28年度活動計画

広報・情報委員会
委員長 青木 学聡

平成 28 年度活動計画

1. マイページ機能の使用開始
2. ホームページの維持管理と充実。特に J-stage とのスムーズな連携
3. 協賛可否、告知依頼の掲載可否など。
4. 会員向け告知情報の充実。外部団体等から広く認知され、協賛依頼等が届くよう図る。

第 26 回年次大会開催概要（計画）

主催：日本 MRS (<https://www.mrs-j.org/meeting2016/jp/>) 後援：横浜市文化観光局

【総合テーマ】：技術革新を先導する先進材料研究

第 26 回日本 MRS 年次大会では、「技術革新を先導する先進材料研究」を総合テーマとし、産業の活性化と材料科学の発展を両立させるための革新的な技術を創出するため、新規機能の探索、新規材料の創製、新規プロセスの開発に関する分野横断的なテーマについて討論いたします。多様な材料の専門家が、領域融合的な情報・技術交換を行いながら、持続可能な社会の構築に寄与する材料づくりにつながることを目指します。

【参加者・発表者の条件】

本年次大会の企画・運営は日本 MRS で行うが、参加者や発表者に会員資格を持つことには課していない。日本 MRS の会員のみならず、世界の大学、高専、国および民間の研究機関などに属する研究者、あるいは材料に関心ある一般の人に広く門戸を開いている。すなわち、公益性がある大会です。

【開催日と会場（予定）】

平成 28 年 12 月 19 日（月）～ 22 日（木）：一般シンポジウム、国際シンポジウム
横浜情報文化センター（〒231-0021 横浜市中区日本大通 11）：受付：口頭発表・ポスター会場
横浜市開港記念会館（〒231-0005 横浜市中区本町 1-6）：口頭発表
波止場会館（〒231-0002 横浜市中区海岸通 1 丁目 1 番地）：口頭発表
産業貿易センタービル（〒231-0023 横浜市中区山下町 2）：ポスター会場

第 26 回日本 MRS 年次大会組織委員会

組織（実行）委員長：森 利之（物質・材料研究機構）
企画幹事：節原 裕一（大阪大学）
ポスター・奨励賞担当：節原裕一（大阪大学）
出版担当：有沢俊一（物質・材料研究機構）
広報担当：青木学聡（京都大学）
事務局：日本 MRS 事務局（竹元、大鷲、大久保）

★シンポジウムテーマとオーガナイザーの募集：1 月より 3 月末まで公募。上記と同じ会場で実施したものは、下記のように、21 のテーマから構成され、今回も前回に準ずる規模での開催と期待されます。）

★「国際シンポジウム」の実施

①シンポジウムオーガナイザー構成が国際的である、②プレゼンテーションを英語で行う、の要件を満たすシンポジウムは、「国際シンポジウム」とみなし、組織委員会で承認することにいたしました。

★Abstract：電子版を事前配布、印刷版を希望者に有料配布

重要期日（予定）

発表申込／参加登録 開始（発表者のみ）	2016 年 5 月中旬
発表申込 締切	2016 年 8 月 28 日（日）
参加登録 開始（聴講者）	2016 年 9 月中旬
受理通知	2016 年 9 月下旬
早期参加登録 締切	2016 年 10 月下旬
参加登録締切	2016 年 11 月下旬
アブストラクト HP 掲載	2016 年 12 月中旬

実施シンポジウム名

A 新規機能材料

- A-1 ソフトアクチュエータ
- A-2 分極に由来する物性発現と新機能材料
- A-3 先進機能性酸化物マテリアル（国際シンポジウム）
- A-4 スマート・インテリジェント材料・デバイス

B 環境・エネルギー材料

- B-1 次世代の環境エネルギーを目指した有機イオントロニクス
- B-2 強相関ナノ物質・材料研究の最前線
- B-3 燃料電池用材料、デバイス、及びシステム開発の新展開
- B-4 暮らしを豊かにする材料－環境・エネルギー・医療－

C ナノ材料

- C-1 フラーレンとカーボンナノマテリアル研究の最前線
- C-2 自己組織化材料とその機能 XIV
- C-3 界面におけるナノバイオテクノロジー (国際シンポジウム)
- C-4 先端プラズマ技術が拓くナノマテリアルズフロンティア (国際シンポジウム)

D 先端界面科学及び材料創製技術

- D-1 セラミックスおよびガラス材料の構造形成に基づく材料特性・信頼性の向上
- D-2 ソフトマテリアルサイエンス：ポリマーを基盤とした溶液・表面・界面・バルクの機能
- D-3 イオンビームを利用した革新的材料創製 (国際シンポジウム)
- D-4 計算機シミュレーションによる先端材料の解析・機能創成
- D-5 先導的スマートインターフェースの確立

E 新規科学技術創製

- E-1 マテリアルズ・フロンティア
- E-2 エコものづくりセクション
- E-3 資源効率
- E-4 スポーツにおける材料科学

補足) 連絡チェアの先生がたには、年次大会開催案内ポスター (A2サイズ) をお送りする予定です。各シンポジウムチェアの先生がたにお送りください。

表彰委員会 H28 年度活動計画

表彰委員会委員長
節原 裕一

奨励賞実施要綱

若手奨励賞について

MRS-J 奨励賞の選考要綱

1. 選考委員会 委員長＝節原裕一 (大阪大学)
2. 選考委員の推薦依頼
 - 1) 各シンポジウムオーガナイザーへ当該分野の選考委員の推薦を依頼する。
 - 2) シンポジウム毎に3名以上の選考委員を推薦していただく。選考委員の数は、口頭講演およびポスター講演の数、専門性等を考慮し、各シンポジウムに委任する。ただし、60分あたり、1人の委員で評価できる講演数は6件(120分で12件)程度が限度であることに留意する。個々の選考委員が、どの講演を評価するかの割り振りは、シンポジウム毎に決める選考委員主査に委任する。なお、選考委員および選考委員主査を主オーガナイザーならびに副オーガナイザーが兼ねることは妨げない。
 - 3) 各オーガナイザーは、あらかじめ各選考委員あてに評価フォーム(講演番号・名前入)、選考規程、細則、当該講演の要旨を送付する。
3. 講演会当日の選考スケジュール (口頭講演、ポスターを含む)

1)各シンポジウムは、事前に、選考委員主査と合議の上、各選考委員に講演番号と名前が記入済みの評価フォームを送付しておく。評価フォームはあらかじめ事務局より各オーガナイザーへファイル送付する。

2)各選考委員は規定ならびに細則に従って、シンポジウム毎の発表時間内に評価を行い、シンポジウム終了後、速やかにそのフォームを選考委員主査に報告する。

3)選考委員主査は、シンポジウム終了後、所定期間内に、インターネットの集計フォーム（以下、WEBシステムと称する）により、以下の事項を選考委員会委員長に報告する。

選考委員主査がWEBシステムにより選考委員会委員長に報告する事項:選考委員の氏名(3名以上)、審査を行った講演の総数、各選考委員の評価結果、推薦順を付した受賞候補者リスト（必要に応じて選考理由を付すこと）。

4)選考委員会委員長は、上記3)の報告結果をもとに、受賞者を最終的に判断する。

4.選考結果の発表と表彰

1)受賞者の名前・所属を「日本MR Sニュース」に公示する。

2)表彰方法：賞状等にタイトルと名前を記入の上、選考規定とともに本人に郵送する。

奨励賞規定

1.本規定は、日本MR S(以下、本会)が若手研究者に対して行う表彰に関して定めたものである。

2.本表彰は、本会が定期的で開催する年次大会で優秀な発表（口頭発表あるいはポスター発表）をした若手研究者個人に「奨励賞」を授与し、その功績を称えることを目的とする。

3.表彰対象は、本会が定期的で開催する年次大会で口頭発表あるいはポスター発表した若手研究者であり、以下の全ての要件を満たす者とする。

(1)論文の登録発表者、(2)実際に発表した者、(3)講演申込時に奨励賞への申込をした者

4.若手研究者については、以下のように区分し、区分毎に表彰者を決定する。ただし、学生に関しては年齢を問わない。

(1)学部学生、(2)大学院修士課程（博士前期課程）の学生、(3)大学院博士課程（博士後期課程）の学生、(4)発表年の12月31日の時点で40歳未満の一般の研究者

5.奨励賞選考委員会は、各シンポジウム毎に表彰候補者の数の10%程度を受賞候補者として選び、理事会に推薦する。

6.理事会は、奨励賞選考委員会の結果を審議し、受賞者を決定する。

7.受賞者には会長名の賞状を授与し、受賞者名を「日本MR Sニュース」に公示する。

8.本規定は、理事会の承認を経て改定することができる。

9.本賞の英文名称は次の通りとし、受賞日は当該年次大会の最終日とする。

Award for Encouragement of Research in Materials Science;

The Materials Research Society of Japan

奨励賞選考細則

1.奨励賞選考委員会

1)奨励賞選考委員会は、本会の年次大会を構成する各シンポジウムのオーガナイザーから推薦された選考委員（各シンポジウム毎に3名以上）と、理事会から推薦された委員長ならびに副委員長各1名から構成される。

2)選考委員の推薦方法は各シンポジウムオーガナイザーに委任する。ただし、選考委員は当該分野に見識のある研究者とする。選考委員会は、推薦リストをもとに選考委員を委嘱する。

3)個々の選考委員が、どの講演を評価するかの割り振りは、シンポジウム毎に決める選考委員主査に委任する。

4)選考委員は、奨励賞規定ならびに本細則に従って、当該シンポジウムで発表された表彰候補発表（口頭発表あるいはポスター発表）について評価を行い、シンポジウム終了後、速やかに評価結果を選考委員主査に報告する。

5) 選考委員主査は、シンポジウム終了後、所定期間内に、インターネットの集計フォーム（以下、WEBシステムと称する）により、下記の4.選考手順に定められた所定の事項を選考委員会委員長に報告する。

6)選考委員会委員長は評価結果をとりまとめ、理事会に報告する。

2.受賞者の数

奨励賞選考委員会は、各シンポジウム毎に表彰候補者の数の10%程度を受賞者候補者として選び、理事会に推薦する。

3.評価項目：以下の5つの項目について評価する

1)理解度：内容を十分に理解しているか？質疑応答が適切になされているか？

2)発表あるいは説明の態度：聴講者に内容を的確に説明しているか？

3)発表あるいはポスターの構成・表現：見やすいか？よく整理されているか？

4)研究内容：十分に考察されているか？

5)総合：総合的に見て、優秀な発表であるか？

上記の項目について、

選考委員毎に4段階で絶対評価(4:非常に優れる、3:優れる、2:普通、1:努力を要する)する。

4.選考手順

1)各シンポジウム毎に選考委員の中から選考委員主査を選出する。

2)専門性に配慮し、1つの表彰対象論文に対し、選考委員（3名以上）を選定する。

3)選考委員が共著の論文は、当該委員は評価できない。その場合、専門性を考慮し、やむをえず代替の選考委員が充当できない場合は、他2名の選考委員の評価平均点を評価点として加算する。

4)3名以上の委員の評点の合計点等をもとに、各シンポジウム毎に受賞候補者の推薦順位を決定し、主査はWEBシステムを用いて選考委員会委員長に報告する。その際、所定の事項【選考委員の氏名（3名以上）、審査を行った講演の総数、各選考委員の評価結果、推薦順を付した受賞候補者リスト（必要に応じて選考理由を付すこと）】を、WEBシステムを用いて選考委員会委員長に報告する。

5.理事会での審議

理事会は選考委員会に審議を委任することができる。

6.受賞者の掲示、表彰などについては原則として以下の通りとする。

1)受賞者を、年次大会終了後概ね1ヶ月以内に決定し、本人に通知すると同時に「日本MR Sニュース」などに公示する。

2)賞の授与は郵送により行う。ただし、この項は本会の学術講演会の運営日程に従い、予告なく変更することができる。

7.本細則は理事会の承認を経て改定することができる。

IUMRS-ICAM 2017 概要 (計画)

趣旨 持続性を視野に入れたグリーン・ライフの先進材料・技術イノベーション

会期 2017年8月27日～9月1日 (レセプション8月27日)

会場 京都大学 (百周年記念時計台会館・吉田キャンパス)

2017(平成29)年8月27日(日)-9月1日(金)

の期間での百周年時計台記念館の全館利用特例が認められた。

バンケット 8月30日 (予定: 国立博物館 (第1候補)・二条城)

その他情報は、以下のURLにある公式ホームページを参照

<http://www.iumrs-icam2017.org/>

フォーラム Future Earth、教育、文化財、他

シンポジウム 30(目標): アジアに偏りのない国際的なシンポジウム

IUMRS メンバーから、「半数程度は外国から」の要請あり。シンポジウム数ではなく国際性を重視する。

現在の時点で **28 シンポジウム開催予定**(目標: 30 シンポジウム。)

組織委員会コアメンバー (敬称略)

実行委員長(組織委員長): 伊熊 泰郎 (神奈川工科大学)

事務局: 森 利之 (事務局長、物質・材料研究機構)、大久保 弘 (つくば地区事務局)

企画委員長: 高原 淳 (九州大学)

現地実行委員: 松尾 二郎 (京都大学)、青木 学聡 (京都大学)

Program/Award Chair: 節原 裕一 (大阪大学)

組織委員:

東 雄一 (本田技術研究所)

林 司 (日新電機)

有沢 俊一 (物質・材料研究機構)

重里 有三 (青山学院大学)

General Chair (世話役): 鈴木 淳史 (横浜国立大学)

7月中旬に現地における打ち合わせを実施するとともに、second circular, call for paperを出す予定。

また、IUMRS-ICAM 2016 (シンガポール) においても、開催案内をバンケットで行う予定。

※IUMRS-ICAM 2017 開催について

IUMRS-ICAM 2017 ホームページ <http://www.iumrs-icam2017.org/index.html>

日程: 2017年8月27日から9月1日

開催地: 京都大学吉田キャンパス

主催: 一般社団法人日本MRS

組織委員会:

伊熊会長 (組織委員長)、鈴木前会長 (世話人)、森 (事務局長)、大久保 弘 (事務局)、組織委員 岸本顧問、有沢理事、ほか

開催趣旨

先進材料研究は、材料の性質を向上させ、新しい現象や機能を応用に結びつけることを目的としています。現在人類が直面しているグローバルな環境問題を解決し、安全・安心な持続発展が可能な社会の実現に向けての材料科学の総合的なアプローチが強く求められています。このような新しい時代に求められる材料の研究開発にあたっては、従来の金属・有機・無機材料、あるいは構造・機能材料といった材質ないし用途別の、また化学工業・鉄工業・機械工業・食品工業・医療・運搬・通信といった業種・職種別の縦割りの概念や組織の枠を越えて、横断的あるいは学際的で、国際社会と連携したグローバルな視点で材料や素材の研究を実践する時代に入ったと思われまます。

日本MRS (The Materials Research Society of Japan) は、材料に関する横断的・学際的な学術研究団体として 1989 年 3 月の発足以来、物質・材料に関するあらゆる問題を議論する場として、内外の関連諸機関と連携協力しつつ、幾多の学術シンポジウム、研究会を開催して参りました。日本MRS 設立の目的は金属、セラミックス、高分子など、歴史のある伝統的な材料研究学会をいわば横断的に結びつける我が国唯一の材料研究学会となることであり、会員数も1000人を上回る規模となっています。また、ヨーロッパ、中国、韓国、インド、シンガポールなど現在14の国または地域のMRSの国際連合であるIUMRS (International Union of Materials Research Societies) の創設メンバーの一つとして、重要な役割を果たしております。最近では、14のMRSの中でも、日本、中国、韓国、インド、シンガポール、台湾からなるアジアのMRSの活動が盛んになりつつあり、日本MRSは、1988年、1993年、2003年にIUMRS-ICAM、1997年にIUMRS-ICA、2012年にIUMRS-ICEMを日本(別表1参照)で主催し、2009年に青島、昨年に台北で開催されたIUMRS-ICAでは後援、協賛するなど世界のMRS、とりわけアジアの拠点として果たす役割がますます強くなっております。

この度、IUMRS の総会において、日本MRS がホスト国MRS となり、IUMRS-ICAM 2017 を開催することとなりました。 予定しております規模としては、全参加者数を1,500人から2,000人(外国から800名)程度を見込んでおり、この会議を通して、多くの国際共同研究を活発化させることを目的に、なるべく国際性を重視した会議にすることを目指しています。各々のシンポジウムは、基調講演、招待講演、口頭講演及びポスター講演から成り、材料科学技術、工学にとって今日的に重要な、広範なトピックスがハイライトされ、材料科学者に対して地球的課題解決に挑戦する機会を提供します。本国際会議で得られる成果は、我が国における材料研究分野のみならず、世界、とりわけ発展途上国における材料の研究の発展に対して与える効果が大きいと考えられます。

別表1 (各国MRS開催IUMRS関連会議)

開催年度	ICAM	ICEM	ICA
1988年	池袋(日本)	日本	
1989年			
1990年		アメリカ	
1991年	E-MRS		
1992年		E-MRS	
1993年	池袋(日本)		揚子江船上(中国本土)
1994年		台湾	台北(台湾)
1995年	MRS-M		ソウル(韓国)
1996年		アメリカ	
1997年	ストラスブール(フランス)		幕張(日本)
1998年		チェジュ(韓国)	バンガロール(インド)
1999年	北京(中国)		
2000年		ストラスブール(フランス)	香港
2001年	カンクーン(メキシコ)		
2002年		西安(中国本土)	
2003年	横浜(日本)		シンガポール
2004年		サンフランシスコ(アメリカ)	新竹(台湾)
2005年	シンガポール		
2006年		ニース(フランス)	チェジュ(韓国)
2007年	バンガロール(インド)		
2008年		シドニー(オーストラリア)	名古屋(日本)
2009年	リオデジャネイロ(ブラジル)		シンガポール
2010年		ソウル(韓国)	青島(中国本土)
2011年	ニース(フランス)		台北(台湾)
2012年		横浜(日本)	釜山(韓国)
2013年	青島(中国本土)		バンガロール(インド)
2014年		台北(台湾)	福岡(日本)
2015年	韓国		シンガポール
2016年		シンガポール	青島(中国本土)
2017年	京都(日本)		

IUMRS 対応委員会 H28 年度活動計画

IUMRS 対応委員会

森 利之

平成 28 年度の活動計画の概要は以下の通り。

- (1) IUMRS-ICAM 2016 (SUNTEC, Singapore, 4th July to 8th July, 2016) 参加 (あわせて総会に出席)
- (2) IUMRS-ICA 2016 (Qingdao, 20th October to 24th October, 2016) 参加 (あわせて Adhering body 会議出席)
- (3) IUMRS-ICYRAM 2016 (11th December to 15th December, 2016)
MRS-J 年次大会 (12 月 19 日から 22 日、横浜) と開催日が非常に近いため、伊熊会長、森 (年次大会組織委員長) は参加不可能。IUMRS 対応委員会委員の松下先生にお願いする予定。
- (4) IUMRS-ICAM 2017 (開催地: 京都) の現地打ち合わせ (8 月ころを予定)
- (5) MRS-Singapore ならびに MRS-Taiwan とのより双方おもにメリットがあり、より密接な連携のありかたについての検討開始。

二者間連携候補選定理由

MRS- Singapore: 代表のチャウダリー教授からの強い要望をうけて検討中。

MRS-Taiwan: 吉村先生 (MRS-J 会長経験あり) が現在 MRS-Taiwan のメンバーであることと、MRS-Taiwan は大変、材料研究の社会での利用に高い関心をもっており、MRS-J の法人会員殿との興味が一致し、MRS-J の法人会員メリット (海外連携面) が打ち出せる可能性がある。